環境影響評価集計表　　環境影響に関する研究一覧

（集計対象：平成28年度　調査実施年度：平成29年度）

部局	No.	著書名／論文／発表題目等	氏名	研究概要
人文学部	1	論文「地域間連携によるウッドスタートの可能性と課題：東京・新宿区ウッドスタート事業の考察」『地域づくり』333号:30ページ	茅野恒秀	伊那市有林における新宿区のカーボンオフセット事業に端を発した地域間連携が、伊那市産の木製おもちゃを新宿区の新生児誕生祝い品に採用する事業につながった事例を検討した。
	2	学会発表「環境ガバナンス時代における環境制御システム論の理論射程」第89回日本社会学会大会（九州大学）	茅野恒秀	環境社会学における環境制御システム論の理論射程を再検討し、現代の環境をとりまく問題状況に即して、環境制御システム論の新たな可能性について考察した。
	3	国際会議報告「Is a “Post Nuclear Fuel Cycle” Rokkasho-Village Possible?」日米原子力協定と日本のプルトニウム政策国際会議2017（国連大学）	茅野恒秀	核燃料サイクル施設（建設中）と高レベル放射性廃棄物（貯蔵）を抱える青森県六ヶ所村の現状と今後について、環境エネルギー政策の動向をふまえて考察した。
経法学部	1	再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）に関する最近の動向：特別措置法の改正を中心に」信州大学経法論集1号483頁（2017年3月）	小林　寛	再生可能エネルギーの固定価格買取制度について、最近の改正の動向を明らかにしながら論じた。
	2	諫早湾干拓地潮受堤防撤去・開門等請求事件に関する最近の動向」環境管理52巻8号61頁（2016年8月）	小林　寛	長崎県・佐賀県等で発生している諫早湾干拓地堤防の開門の司法的問題について最近の動向を明らかにし検討した
	3	温泉地における温泉発電事業と運営体制との関係」ランドスケープ研究80巻5号631頁（2017年3月）	渡辺貴史・馬越孝道・小林寛	温泉地（長崎県小浜温泉、福島県土湯温泉、兵庫県湯村温泉）を対象として、温泉発電事業と運営体制の関係を明らかにした。

理学部	1	Itino T and AS Hirao (2016) Plant genetic diversity and plant-pollinator interactions along altitudinal gradients. In: Structure and Function of Mountain Ecosystems in Japan: Biodiversity and Vulnerability to Climate Change (Ecological Research Monographs) (eds. By Kudo G) pp. 63-88. Springer. ISBN 978-4-431-55954-2	市野隆雄	中部山岳地域における標高傾度に沿った植物の遺伝的・生態的分化に関する一連の研究： 山地性植物は「高地型」と「低地型」に分化し、それぞれが独自の遺伝的固有性をもつ「保全すべき単位」である可能性がある。そこで、これまで未解明であった山地性植物種の標高間生態的分化について研究をおこなった。
	2	A snail-eating snake recognizes prey-handedness Scientific Reports,6:23832, 2016 Author:Danaisawadi, P., Asami, T., Ota, H., Sutcharit, C. and Panha, S.	浅見崇比呂	有限の食物資源に対応した巻貝専食ヘビおよび天敵に対応して進化した巻貝の共進化に関する行動生態学的研究
	3	Novel shell device for gas exchange in an operculate land snail Biology Letters,12:20160151, 2016 Author:Páll-Gergely, B., Naggs, F. and Asami, T.	浅見崇比呂	陸上の自然環境下での天敵および乾燥に対応する適応進化に関する研究
	4	Breathing device of a new Streptaulus species from Vietnam extends understanding of the function and structure of respiratory tubes in cyclophoroids (Gastropoda: Caenogastropoda: Pupinidae) Journal of Molluscan Studies,83:243-248, 2017 Author:Pall-Gergely, B, Gargominy, O, Fontaine, B, Asami, T	浅見崇比呂	陸上の自然環境下での天敵および乾燥に対応する適応進化の結果として殻の構造がいかに多様化したかに関する研究
	5	温暖化モニタリングのためのコマクサ等高山植物の生態・動態調査	原山智	1. コマクサ等高山植物の継続的定点観測　御嶽山，乗鞍岳，横通岳，燕岳，蓮華岳，雪倉岳を対象とする。 2. コマクサ生育数の広域迅速モニタリング技術の開発 3. 生育環境の基本データ取得（地温計測，土壌分析，土壌微生物，生育サイクル観測）
	6	（論文）石狩炭田地域に産する菱鉄質岩の成因（1）―前駆物質の形成過程	淺野有希・森清寿郎・日下部智也	石狩炭田地域に産する菱鉄鉱質岩のソースがラテライトではなく河川中に溶存しているFe2+であることを明らかにした.
	7	（論文）石狩炭田地域に産する菱鉄質岩の成因（1）―前駆物質の還元過程	淺野有希・森清寿郎・日下部智也	河川・湖沼に堆積した水酸化鉄が還元される過程で，方解石が必然的に沈殿する理由を明らかにした.

全学教育機構	1	『オーストリア文学におけるネイチャーライティング．シュティフターの描く光の喪失』 ASLE-Japan 文学・環境学会，第22回全国大会 シンポジウム「自然へのまなざし—19世紀ドイツ語圏の環境と文学」2016(Aug. 20)	松岡　幸司	「日食」と「大雪」に関するシュティフターの二つのエッセイを分析し，それらの作品に対するネイチャーライティングとして評価を行い，そこに描かれる「自然（環境）と人間の関係」について考察した．
	2	「場所」あるいはアイデンティティの継承：『山の郵便配達』における「道」という「場所」 信州大学総合人間科学研究,(11):pp. 170-177 2017(Mar. 17)	松岡　幸司	小編『山の郵便配達』を，「場所の文学」という視座から環境文学的に分析した．登場人物の体験から，人間は，自然環境や人間関係も含むエコロジカルなネットワークの中にアイデンティティを持つことを明らかにした．
	3	教養科目としてのLCA授業の導入とその教育効果	小林　充	製品やサービスのCO2排出量や地球温暖化影響量を評価するライフサイクルアセスメント（LCA）を広く普及するため，信州大学の教養科目としての授業内容やその効果について研究した．
	4	製品・サービスのライフサイクルアセスメント	小林　充	各社の製品・サービスのライフサイクルアセスメントを実施し，環境負荷量や地球温暖化等の環境影響量および社会コストを算出した．
	5	製品のカーボンフットプリント・エコリーフ等の環境ラベル	小林　充	各社の製品のライフサイクルアセスメント評価を実施し，カーボンフットプリントやエコリーフおよびエコマーク等の環境ラベルによる情報公開について研究した．
	6	「東南アジア島嶼部における狩猟採集民と農耕民との関係」 東京大学出版会，『狩猟採集民からみた地球環境史』，:pp.112-127 2017(Mar.)	金沢　謙太郎	「東南アジア島嶼部における狩猟採集民と農耕民との関係」を論じた。
	7	「熱帯原生林の共生社会論—ボルネオの原生林を守る民族間コミュニケーション—」 『信州大学総合人間科学研究』,(11):pp.19-34 2017(Mar. 17)	金沢謙太郎・分藤大翼・小泉都・佐久間香子	「熱帯原生林の共生社会論—ボルネオの原生林を守る民族間コミュニケーション—」を論じた。
	8	Sustainable Harvesting and Conservation of Agarwood: A Case Study from the Upper Baram River in Sarawak, Malaysia Tropics,25(4):pp.139-146	金沢　謙太郎	Sustainable Harvesting and Conservation of Agarwood: A Case Study from the Upper Baram River in Sarawak, Malaysiaについて論じた。
	9	「多様性と正義」 2016年度日本マレーシア学会（JAMS）研究大会シンポジウム「サラワクからみたマレーシア」 2016(Nov.)	金沢　謙太郎	「多様性と正義」について議論した。

全学教育機構	10	スポーツ観戦環境の設計(Ⅰ)～モダンスタジアム・デザインの変遷と具体例～	橋本　純一	観戦空間編成をその歴史的経緯と具体例からグローカルなアプローチで検討し、望ましいスポーツ観戦環境構築の一助とした。
	11	論文：次代の地域ブランド構築と大学の役割 次代の地域ブランド構築と大学の役割　産学連携学,13, 39-47 2016.	林　靖人	長野県木曽地域の地域ブランド構築において、地域の自然・生活文化資源を活用したユネスコ･エコパークの可能性を実践的に研究
	12	「熱帯原生林の共生社会論 —ボルネオの原生林を守る民族間コミュニケーション—」 日本熱帯生態学会第26回年次大会 2016(Jun.)	金沢謙太郎・分藤大翼・小泉都・佐久間香子	「熱帯原生林の共生社会論 —ボルネオの原生林を守る民族間コミュニケーション—」について報告した。
	13	「熱帯原生林の共生社会論—ボルネオの原生林を守る民族間コミュニケーション—」,『信州大学総合人間科学研究』, 査読有り, 11, pp.19-34, 2017.	金沢謙太郎・分藤大翼・小泉都・佐久間香子	商業伐採が進行するマレーシアにおいて、サラワク州（ボルネオ島）のバラム河上流域には5万ha強の原生的森林が残っている。その森に暮らし、森を守ってきたのは狩猟採集民のプナン人たちである。熱帯原生林を守る狩猟採集民と農耕民の社会的関係性について、文化、歴史、政治の諸側面から考察する 。
	14	平成28年度信州大学新入生の体力傾向の分析：運動の実施状況の違いによる検討	廣野 準一, 速水 達也, 杉本 光公	本研究では、体力測定の結果を運動・スポーツの実施頻度別に検討を行った。その結果、以下の ことが考えられた。1) 運動・スポーツの実施頻度は、形態的指標にはあまり影響を及ぼさない。2) 運動・スポーツの実施頻度が高いほど、機能的体力指標は高い値を示した。3) 特に全身持久力に関しては、運動・スポーツの実施頻度に伴って向上する可能性が示唆された。
	15	″Greening PanSIG″ In G. Brooks, M. Porter, D. Fujimoto, & D. Tatsuki (Eds.), The 2015 PanSIG Journal. Tokyo: JALT, pp. 23-30 (共著 with Brent Simmonds, Catriona Takeuchi, Peter Hourdequin, & Tim Pritchard)	BRIERLEY MARK ALAN	学会参加者や運営関係者は環境問題に関心をもっていることを考慮し、 本論ではPanSIG大会における、カーボンフットプリント、カーボンオフセットや大会におけるケータリングなどの運営面での環境への影響を概観する。
	16	″Greening PanSIG″ 発表２０１６年度JALT PanSIG大会、国際教養大学	BRIERLEY MARK ALAN	学会参加者や運営関係者は環境問題に関心をもっていることを考慮し、 本論ではPanSIG大会における、カーボンフットプリント、カーボンオフセットや大会におけるケータリングなどの運営面での環境への影響を概観する。